



日本麻酔科学会第71回学術集会
共催セミナーL13

Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.

信 頼 と 合 意



日時▶ 2024年6月7日 (金)

11:30 ~ 12:30

会場▶ 第5会場

神戸ポートピアホテル南館
B1F トパーズ *300席

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目10-1

事前予約について

学術集会HPにて事前予約を行っております。
事前予約がない方は当日空席がございましたら
先着順でご案内させていただきます。
チケット・整理券等は配布しておりません。

多職種で実践する術後疼痛管理 ～麻酔科・薬剤師の観点から～

座長 森松 博史 先生

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 麻酔・蘇生学講座 教授

術後疼痛管理における薬剤師の役割

Role of pharmacist in postoperative pain management

演者 柴田 ゆうか 先生

広島大学病院 薬剤部 副薬剤部長

術後疼痛管理チームを興し、 継続するために麻酔科医は何をするか

The Role of Anesthesiologists in Establishing and Sustaining a Postoperative Pain Relief Team

演者 井上 莊一郎 先生

聖マリアンナ医科大学 麻酔学 主任教授



術後疼痛管理における薬剤師の役割

Role of pharmacist in postoperative pain management

高齢化に伴い基礎疾患を有するハイリスク症例の手術が急増し、質の高い周術期医療と術後疼痛管理における多職種連携がますます重要となっている。実際、手術患者を取り巻く状況は大きく変わり、入退院支援部門や術前外来の普及、術後疼痛管理チーム加算の新設など周術期を通じた新たなシステムができつつある。

令和4年に麻酔管理料(Ⅰ)(Ⅱ)に加算する形で新設された周術期薬剤管理加算では、薬剤師による周術期の薬物療法に係る医療安全に関する取組の実態を踏まえ、質の高い周術期医療が行われるよう手術室の薬剤師が病棟の薬剤師と薬学的管理を連携して実施した場合の評価となっている。これらの動向を受け、周術期薬剤師業務は大きな転機を迎えている。

今回、当院における術後疼痛管理チームの取組みの中から薬剤師が実施している、術前患者評価、患者自己調節鎮痛(patient controlled analgesia: PCA)処方監査、PCA用薬液調製、PCA用薬液使用時の安全管理、PCEA患者に対する抗血栓薬投与回避、効果と副作用の評価、プロトコールとクリニカルパスの評価について紹介する。

柴田 ゆうか 先生

広島大学病院 薬剤部 副薬剤部長

術後疼痛管理チームを興し、 継続するために麻酔科医は何をするか

The Role of Anesthesiologists in Establishing and Sustaining a Postoperative Pain Relief Team

2022年の診療報酬改定により、質の高い疼痛管理による疼痛の減弱、生活の質の向上及び合併症予防などを目的とし、多職種者チームによる疼痛管理に診療報酬が付与された。対象は全身麻酔を受けた患者で、術後に局所麻酔薬の硬膜外持続注入、神経ブロックでの麻酔薬の持続注入または麻酔薬を静脈内投与しているもの(覚醒下に限定)で、常勤麻酔科医、術後疼痛管理に関する研修を修了した看護師、薬剤師、可能であれば臨床工学技士から成るチームが、プロトコルに基づき、各患者の状態に応じ、必要であれば主治医やチーム以外の医療スタッフと連携して疼痛管理を行った場合、手術翌日から3日間を限度として100点/日を得ることができる。

これは、術後鎮痛の重要性が認められたという朗報であるとともに、周術期医療の目的、チーム医療の重要性、術後鎮痛における麻酔科医の役割、手術室外での麻酔科医の診療の重要性を示した点で注目に値する。そこで、自験例からチームでの麻酔科医の役割について考えたい。本施設では、数カ月の準備を経て2023年前半よりチームでの診療を開始した。準備期間中、麻酔科医はチームの具体的な活動内容、評価方法、勉強会の開催方法や内容を提案し、プロトコルや書類を作成した。そして、チームメンバーだけでなく病棟スタッフ、事務職員とも協同し、この提案などを磨き込むほか、医事会計までの流れも検討・策定した。勉強会は、病棟看護師から収集した質問・疑問点に答える内容を多く含む教材を診療看護師と麻酔科医で作成し、講師は診療看護師が務めた。活動開始当初、対象は術後ハイ・ケアユニットの患者のみであったが、現在は病棟の患者にも広げている。

麻酔科医の視点からは、集積した記録から痛みだけでなく周術期医療全般への効果を評価し、それに基づいた活動の修正を図ること、スタッフの交代に影響を受けないチーム作りをすることが、今後の課題と考えている。

井上 莊一郎 先生

聖マリアンナ医科大学 麻酔学 主任教授